



学 校 要 覧

農業を学び

未来を見つめ

明日を切り拓く

人づくり

専修学校
滋賀県立農業大学校

〒 521-1301 滋賀県近江八幡市安土町大中 503
TEL. 0748-46-2551 FAX. 0748-46-2552
URL <http://www.pref.shiga.jp/g/nogyo-nodai/>



沿革

- 昭和 44 年 4 月 滋賀県立高等営農学園を開校する（定員：本科 80 名、別科若干名）
昭和 45 年 4 月 短期研修科を設置する（定員：若干名）
昭和 50 年 4 月 滋賀県立営農大学校と改称する
（定員：本科 40 名、別科 10 名、短期研修科若干名）
昭和 52 年 10 月 農林水産省の農業者研修教育施設（農業改良助長法による）指定校となる
昭和 54 年 4 月 別科を廃止、本科定員 50 名とする
平成 元年 4 月 滋賀県立農業大学校と改称する（定員：本科 30 名）
平成 11 年 4 月 研修科を設置する（定員：若干名、6 ヶ月）
平成 19 年 4 月 農林水産省の農業者研修教育施設に加え、
文部科学省の学校教育法に基づく専修学校となる
本科を養成科と改称、研修科を就農科に改組する（定員：若干名、1 年）
寮制度を廃止する

教育方針

本県の次代の農業経営を担う優れた人材を育成するとともに、地域社会における農業の振興等に指導的役割を果たす個性豊かな人材を養成する。

- ① 近代的な農業を行うために必要とされる高度な専門知識技術および経営能力を養成する。
- ② 実践学習を通じて、農業者としてふさわしい幅広い視野を持った経営能力および組織活動能力を養成する。



校歌

作詞 太田活太郎
作曲 北村 昭

- 一、水うるわしき びわのうみ
ここ営農の まなびやに
つどいし我等 若き者
今この道に このわざに
むすびもかたく あらたなる
希望は空に にじをふく
- 二、かぜさみどりの 大なかの
ここ営農の まなびやに
ちかいし我等 若き者
今この土に このくわに
湖国の文化 開きつつ
打ちこむ力 汗を呼ぶ
- 三、雪さやかなる 比良の峰
ここ営農の まなびやに
きたえし我等 若き者
今この腕に この胸に
青春の夢 かたむけて
つらぬくまこと 花と咲く

養成科

優れた青年農業者を育成するため、高等学校を卒業した者（または同等以上の学力を有すると校長が認めた者）を対象に実践教育を行う。

教育課程

専攻コース・教育場所

専門課程	専攻コース	教育場所	修業年限	入学定員
農産	作物	農業大学校	2年	1学年 30名
	茶	農業大学校・茶業指導所		
園芸	野菜	農業大学校		
	花き			
	果樹			
畜産	畜産	農業大学校・畜産技術振興センター		

※専攻コース、教育場所は1学年9月以降

※茶業指導所は甲賀市水口町水口波濤ヶ平、畜産技術振興センターは蒲生郡日野町山本にあります

教育体系

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1学年	教養 共通 学習	農業 体験 Ⅰ	教養共通 学習		夏期 休業	専攻学習・共通学習			冬期 休業	専攻学習 共通学習		春期 休業
第2学年	春期 休業	専攻学習・共通学習			夏期 休業	農業体験 学習Ⅱ	専攻学習 共通学習		冬期 休業	専攻学習 共通学習 卒論作成		卒業 式

※1年後期以降にも一部教養学習はあります

年間行事等

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事名	入学式 プロジェクト計画検討会	校内体育大会 1年生農業体験学習 トラクタ研修①	東海近畿地区スポーツ大会 けん引研修① トラクタ研修①	前期試験		2年生農業体験学習（2ヶ月）	1年生研修旅行 トラクタ研修②	収穫祭 けん引研修② 2年生研修旅行 農業体験学習報告会	プロジェクト研究発表会	東海近畿学生研究意見発表会 後期試験①	1年生スキー研修 全国農業大学校学生交換大会・発表会	後期試験② 卒業証書授与式

教育科目

▶ 教養科目

法律 経済 倫理Ⅰ・Ⅱ 地理 応用化学 実用英語 情報処理Ⅰ・Ⅱ 体育Ⅰ・Ⅱ 農業基礎
環境概論 学習方法論 消費生活論

▶ 共通科目

農業経営 農業政策 情報処理Ⅱ 生物工学Ⅰ 農業簿記 農産物流通 気象と農業災害
土壌肥料 生活経営・労働科学 農産加工 農業機械(学科・実技) 農業技術概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
農産物流通加工特論 環境保全と農業 特殊技術学習 基礎実習 農業体験学習Ⅰ・Ⅱ

▶ 専攻科目

農産(作物)

作物総論 水稻栽培 水稻こだわり栽培
麦類の栽培 大豆栽培 作物病害虫
植物病理 応用昆虫 育種と採種
水田作野菜 稲作経営 農業機械Ⅰ・Ⅱ
農業機械利用 農業施設 水田雑草対策
専攻演習(ゼミナール)
実習およびプロジェクト学習 卒業論文

農産(茶)

茶業経営Ⅰ・Ⅱ 茶の栽培基礎Ⅰ・Ⅱ
茶の栽培応用Ⅰ・Ⅱ 茶の病害虫Ⅰ・Ⅱ
茶園土壌 茶園の施肥法Ⅰ・Ⅱ 茶の化学
茶の製造・再製Ⅰ・Ⅱ
専攻演習(ゼミナール)
実習およびプロジェクト学習 卒業論文

園芸(野菜)

野菜総論 トマト栽培 キュウリ栽培
イチゴ栽培 メロン栽培 ナス栽培
結球・花野菜栽培 根菜類栽培
軟弱野菜栽培 植物病理 園芸用施設
応用昆虫 園芸育種 野菜経営Ⅰ・Ⅱ
野菜流通Ⅰ・Ⅱ 野菜病害虫
専攻演習(ゼミナール)
実習およびプロジェクト学習 卒業論文

園芸(花き)

花き総論 バラ栽培 カーネーション栽培
草花栽培 キク栽培 宿根草・球根類栽培
鉢物・花苗栽培 洋ラン・観葉植物栽培
緑化樹 花き経営Ⅰ・Ⅱ フラワーデザイン
植物病理 応用昆虫 花き流通
花き病害虫 園芸用施設
専攻演習(ゼミナール)
実習およびプロジェクト学習 卒業論文

園芸(果樹)

果樹総論 カキ栽培 ナシ栽培 ブドウ栽培
モモ栽培 イチジク栽培 ブルーベリー栽培
各種果樹栽培 果樹経営Ⅰ・Ⅱ
果樹栽培環境 果実の加工 果実の化学
植物病理 果樹病害虫Ⅰ・Ⅱ
専攻演習(ゼミナール)
実習およびプロジェクト学習 卒業論文

畜産(畜産)

畜産概論 畜産経営 畜産物流通
家畜育種 飼育管理Ⅰ・Ⅱ 家畜栄養
家畜衛生 家畜繁殖 生物工学Ⅱ
家畜解剖 飼料作物Ⅰ・Ⅱ
専攻演習(ゼミナール)
実習およびプロジェクト学習 卒業論文

▶ 特別活動

- **学校行事** 入学式 始業式 終業式 卒業式 東海近畿地区学生スポーツ大会 体育大会 研修旅行
- **特別教育** 指導農業士および本校卒業生の講話 進路学習 合宿研修
- **自治活動** 学生自治会主催の活動 クラブ・サークル活動

■ 専攻別学習内容・実習

● 作物コース

水稻や麦・大豆などの栽培技術や省力、低コスト栽培、有機栽培、食味向上などの技術の習得。



● 茶コース

全国的に知られている近江茶の栽培と製茶技術の習得。



● 野菜コース

メロンやトマトなど果菜類や露地野菜の栽培技術、養液栽培、少量土壌培地耕など高度な生産技術の習得。



● 花きコース

カーネーション栽培やバラ・キクなどの施設切り花やシクラメンなどの鉢物、花苗、露地切り花など多彩な品目の栽培技術の習得。



● 果樹コース

ブドウ・ナシ・モモ・カキなどの果樹栽培技術の習得。



● 畜産コース

近江牛で知られている肉牛や肉用鶏の飼育技術の習得。



■ 学校生活

2年間の学生生活の中で、また少ない学生数ではあるが、サークル活動や自治会活動に励んでいる。

● サークル活動



フラワーアレンジメント

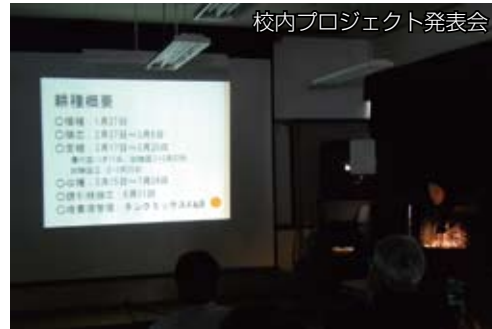


ツーリング

● 学校行事等



農産物の販売



校内プロジェクト発表会



ふれあい農業Day



東海近畿学生スポーツ大会



1年研修旅行 H21 北海道



スキー・スノーボード研修



収穫祭



東海近畿学生研究および意見発表会

多様な技術の習得

● 農業機械等の研修

大型特殊自動車であるトラクタの運転およびけん引運転技術の習得と免許取得に向けた研修



● 情報処理研修

コンピュータの操作や農業経営分析など情報処理技術の習得研修



特典と資格免許の取得

● 特典

- ・本校養成科の課程を修得した者（以下 卒業生）には「専門士」の称号を与えられる。
- ・卒業生は、人事院規則・滋賀県人事委員会規則上、短期大学校卒業と同等に扱われる。
- ・卒業生の4年生大学への編入学試験の受験が可能。（ただし、編入学制度を有する大学のみ）
- ・独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与を受けることができる。
- ・就農する者は、就農支援資金の貸与を受けることができる。
- ・社団法人国際農業者交流協会などが行う海外農業研修に応募できる。

● 資格取得

希望者は、就農や就職に必要とされる各種資格の取得が可能である。

- ・大型特殊免許（農耕用）
- ・けん引免許（農耕用）
- ・危険物取扱者（乙種各類）
- ・毒物劇物取扱者（農業用品目）
- ・2級ボイラー技士
- ・ボイラー取扱技能講習
- ・フォークリフト運転技能講習
- ・アーク溶接等の業務特別教育
- ・ガス溶接技能講習
- ・家畜人工授精師（畜産専攻生）
- ・農業機械士
- ・床上操作式クレーン運転技能講習
- ・小型移動式クレーン運転技能講習
- ・玉掛け技能講習
- ・小型車両系建設機械運転特別教育
- ・車両系建設機械技能講習



■ 進路状況

- 農業専従者 30～40%
- 農業関連企業就職 40～50%
- その他企業就職等 10～20%

平成20年度末までの卒業生総数は963名で、うち就農者は347名、農協や農業関連企業就職者は382名、その他企業等就職者は234名となっている。

就農者は滋賀県農業の担い手として、農協などに就職した者は地域農業の指導的な役割を果たし活躍している。また海外研修（アメリカやヨーロッパで1～2年）に参加する卒業生もいる。

卒業年度	卒業生数	農業専従者	継続研修		農業団体 ・関連企業	その他 企業等
			国 外	国 内		
平成11年	16	3	1	1	6	5
12年	31	5	1	2	9	14
13年	23	4	2	1	8	8
14年	27	10	2	2	6	7
15年	20	8	1	0	9	2
16年	28	12	0	1	10	5
17年	27	5	0	1	13	8
18年	23	10	0	0	10	3
19年	19	6	0	0	10	3
20年	17	3	0	0	11	3
(予定)21年	19	6	1	0	6	6

(各卒業年度3月末時点)

● 過去5年間の主な就職先

- 農協（JA） JA グリーン近江 JA 東能登川 JA 北びわこ JA おうみ富士 JA 甲賀郡 JA 東びわこ
- 農業生産法人等 (有)花匠 (株)花職人 (有)西田養鶏 横江農園 (株)グリーンちゅうず 大中農園
マキノピックランド (有)フクハラファーム (有)嶋田ファーム 竹山農園 (有)米田農園
(株)岡喜牧場 (株)吉仁園
- 農業関連企業関係 (株)ヤンマー農機関西 (株)イセキ関西 (株)東近畿クボタ 滋賀三菱農機(株)
タキイ種苗(株) (株)日本酪農 (株)高島屋植物園 (株)えんどう種苗 (株)大宝
(有)カワシマ園芸 (有)たねや農場 (有)カワシマ種苗 (株)滋賀重農機整備センター
- その他一般企業 (有)ヒトミワイナリー (株)たねや 大阪中央青果(株)

卒業生からのメッセージ



小椋 衣久乃さん

農業高校で食品について学ぶ中で農業を深く学んでみたいと考えようになり、農業大学校に入学を決めました。

私の家は父と祖父が稲作をしていることもあり、作物を専攻しました。そこで学んだ専門学習や実習、さらに指導農業士さん宅での農業体験はとても貴重なものとなりました。また学生同士はもちろん先生とも親しくできることが農大の一番の良さであると感じます。

私は今、JA グリーン近江に勤めていますが、農大で学んだ知識や経験が私の支えとなり、農大で知り合えた多くの方々との出会いが本当に役立っています。卒業して数年経った今も農大を訪ねることがあります。これからも農大との連携はきっと続いて行くことでしょう。

農大で出会えた仲間・先生に感謝しています。



中高賀 保臣さん

私は普通科高校出身で、家も農業をやっているわけではありません。しかし、高校の進路相談の中で先生から農大を紹介していただき、農大に興味を持ち進学を決意しました。

最初は農業の基礎的な知識も少なく、不安もありました。しかし、それは杞憂で、仲間との生活や専攻実習など充実した学生生活を送ることができました。そうした日々の中、農業に魅了され、就農への意欲が湧いてきました。

農業大学校を卒業した後、農業法人へ就職。そして縁あって、1年間は農業大学校で実習指導員として後輩の実習指導をさせていただきました。昨年より茶園を中心に経営を始め、新規就農という夢の第一歩を踏み出しました。農大でできた友人等の人脈を大切に、農大で培った精神と技能を生かして活躍していきたいと思っています。

本県において就農をめざす多様な人材を育成するため、農業経営に必要な実践的栽培技術や経営管理手法をそれぞれの経験や熟度に応じて付与することにより、円滑な就農を促し、安定した農業経営の実現をめざす。

■ 専攻コース

専攻コース	修業年限	定員
野菜	1年	若干名
花き		
果樹		

■ 研修内容

個々の研修生の知識・経験等を勘案しながら農業経営に必要な実践的な実習ならびに講義を行う。

● 実習

● 栽培管理実習

野菜専攻コースは、就農科専用の施設を活用して栽培管理技術の習得を図る。
花き・果樹専攻コースは、養成科の施設を活用して栽培管理技術の習得を図る。

● 販売管理実習

栽培管理実習で得られた農産物について、研修生自らが販売実習を行い、実践的販売管理を学ぶ。

● 経営管理実習

栽培管理実習で用いた資材などの経費および販売管理実習で得られた収入を記帳し、経営管理を学ぶとともに実習の成果を数字で表すことにより緊張感ある実習とする。

● 講義

● 経営管理技術

- ・ 農業経営管理基礎
- ・ 農業政策・法務
- ・ パソコン農業簿記
- ・ 農業マーケティング論

※この他に養成科の講義を聴講することができる。

● 栽培管理技術

- ・ 専攻部門の概論
(野菜・花き・果樹のいずれか)
- ・ 選択作目の生理・生態
- ・ 選択作目の栽培管理基礎

● 就農計画ゼミ

- ・ 経営計画樹立のための演習。
- ・ 研修終了後の自らの農業経営について経営計画を樹立。

● その他

就農に向けて必要な資格・技術は養成科の講義を受講することにより取得することができる。(養成科の資格取得を参照)



■ 開放講座

広く農業者や一般県民を対象に、農業に対する理解と関心を深めるとともに、農業知識や技術の普及を図るため実施する。

研修の種類	対象者	講 座 名		定員	期間
〈1〉園芸講座	一般県民	おいしいぶどう作り	(ぶどう管理技術)	80名	半日
		秋・冬に咲かせる切花の管理	(切花栽培技術)	80名	半日
		売れる野菜づくり	(秋冬野菜の栽培技術)	80名	半日
		小菊栽培の基礎	(切花栽培技術)	80名	半日
		ぶどうの剪定方法	(ぶどう剪定技術)	80名	半日
		売れる野菜づくり	(夏野菜栽培技術)	80名	半日
〈2〉IT研修	農業者	農業経営簿記講座 複式簿記の基礎、簿記ソフトによる財務諸表作成		20名	2日間

■ 農業機械研修

農業者を対象に、大型農業機械利用技術ならびに農作業安全に対する知識や技術の習得を図るため実施する。

研 修 名	講 座 名	定員	期間
トラクタ基本研修	トラクタの構造、運転操作等の基本的な知識、技能習得	20名	5日間
けん引研修	トレーラのけん引操作および安全運転技能の習得	15名	5日間
農業機械士養成研修	オペレータとして大型・高性能な農業機械を十分に駆使しうるに必要な知識、技能の習得	20名	4日間
農作業安全研修	農作業安全に対する知識、技能習得	20名	半日
指導農業機械士養成研修 (隔年)	農業機械作業の管理者・指導者として活動するために必要な知識と技能を習得	10名	2日間



教育研修施設配置図



用地	敷地（総面積）	85,906㎡
	農業用地	64,251㎡
	農業外用地	21,655㎡

本館および 付属施設	研修館（校長室、職員室、教室、会議室、図書室等）	延べ 925㎡
	あしば研修館（情報処理室、ゼミ室、農事相談室等）	358㎡
	学生会館（学生ホール、談話室、浴室、保健室、宿泊室等）	延べ 1,265㎡
	体育館	694㎡
	トラクタ練習場	5,500㎡

専攻学習施設	ほ場	水田	435 a	
		果樹園	41 a	
		露地畑	30 a	
	施設	ガラス温室	9棟	2,080㎡
		鉄骨ビニールハウス	1棟	300㎡
		ビニールハウス	11棟	1,872㎡
	農業機械研修室		120㎡	

本校所在地と交通手段 ACCESS

- ◆JR琵琶湖線「安土駅」より5km、タクシー10分
- ◆JR琵琶湖線「能登川駅」より5km、タクシー10分

